

KEYAK!

3月号

先月のさくひんてんへのご参加ありがとうございました。勝手ながら参加日を曜日で分けさせていただいたにも関わらず、皆様の規範と意識の高さにより、無事に終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

季節も随分暖かくなり、木々もよく見れば枝の分かれ目から小さい新芽が出てきていたり、土の中からも新しい芽吹きが始まっています。いつもこの時期の新芽をみると、けやきようちえんの子どもたちが重なって見えます。さくひんてんの余韻があるからでしょうか。

初めてけやきのさくひんてんをご覧になられた方は大抵、この作品群に圧倒されます。ダイナミックさにもその勢いにもクオリティにも「子どもたちの」という概念が少し変わられるようです。年少さんから順番に見ていくとどンドンどンドン、という声も聞かれます。

私も毎年驚かされます。本気で彼らにうらやましさやあこがれや尊敬の念を感じます。一体どこから描き始めて・・・とか下書きは、間違えたら、バランスが・・・なんて考えてるからいつまでもどこまでも敵わないのでしょうか。思い切り表現できるって素晴らしい！

きっと彼らには失敗なんてないんだ。失敗は成功の元なんて言うけれど、成功するためだけに失敗がある訳じゃないんだ。失敗は新しい発見なのだ。あるいは失敗と気付く前にそんな部分はまたいで次に進んで行っちゃってるのかもしれない。

ただ思い切りあそんで園生活を送っているだけに見えてしまう方もいるかも知れません。ただあそんでるだけではあんな風にはなりません。子どもたちは3年間を通して獲得していくこのあそびは、かけがえのない学びなのです。

もうひとつに、ひとりじゃない、ということ。その中に、ビジョンを持った先生と共感し合える子どもたちがいる。真似たり調子に乗れたり刺激を受けられるのも仲間がいるからできること、できたことがいっぱいあったと思います。

この先もずーっと、背伸びする必要はまったくないけど、あの絵や作品のように何事にもちっちゃくならず、せめて気持ちや頭の中は広く大きく持っていてほしいと思っています。

就学そして進級する子どもたちみんなへ。先生たちからのエールです。